

新普通科系高校創設に向けた「まとめ」の概要

1・2 新普通科系高校の創設に向けて… 基本方針と策定の経過

- 基本方針において、塔南高校の教育風土をしっかりと引き継ぎ、「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標としている。

3 教育課程や教育活動の具体化について**(1) 京都の都市特性を最大限に生かした教育活動の在り方**

- 伝統や文化はもとより「大学のまち」「ものづくり都市」など、多様で奥深い都市特性を有する京都は、生徒が様々な分野の人との交流を通じて刺激を受ける機会に恵まれており、京都の強みを最大限に生かした教育活動を推進する。
- 高い目標に果敢に挑戦する意欲、新しい文化や科学技術のイノベーションを創出する柔軟な思考力と斬新な発想力、行動力を兼ね備え、将来、京都はもとより、我が国の発展に貢献する担い手の育成を目指す。

(2) 魅力あふれる教育課程の編成と授業の在り方

- きめ細やかな授業の展開等により、知識、技能などの学力の確実な定着を図るとともに、言語技術の習得を基盤として社会人基礎力を高めるための教育課程を編成する。
- 企業や大学と連携し、最先端の科学技術の知見やグローバルイノベーション活動の一端、また、ベンチャー精神や起業家マインドにふれるなど、創造的な活動を進める。
- 教科においては「総合的な学習の時間」での学習と関連付けながら、学びの主体である生徒が能動的に学習に取り組めるよう、すべての教科でその特性や学習内容に応じた効果的なアクティブ・ラーニングを展開する。
- 相互に留学生を受け入れる姉妹校提携等による国際交流プログラムの実施を検討する。

(3) 生徒の主体性を引き出す教育活動の在り方

- 生徒が委員会活動やボランティア活動の一環として、海外研修や学校説明会等の学校行事の企画・立案から、運営までを行える枠組みを構築する。
- 多様な部活動を活性化するとともに、学校行事日や土日休業日の設定などにより、教育活動と部活動の高いレベルでの両立を徹底する。

(4) 小・中学校等や地域と連携した教育活動の在り方

- ボランティア活動や福祉施設との連携事業など教育活動におけるダイバーシティ化を推進し、多様な他者との関わりを通して協働する力を育成する活動を展開する
- 探究活動の成果などを積極的に発信し、高校生が子どもと大人を繋ぐ役割を果たしながら、地域に様々な世代間の交流を創出する。
- 地域とともに歩む学校づくりを進めるため、学校・家庭・地域がともに学校運営について協議し、行動する「コミュニティ・スクール」の導入について準備を進める。

(5) チームとして協働する学校の在り方

- 教職員のチームとしての力を高めるため、チームビルディングや生徒の主体性を引き出すためのコーチングスキルに関する教職員研修を定期的実施する。
- 地域や企業・大学の方々に教育活動を支援していただくため、専門のコーディネーターを核とする教育支援組織（サポートボード）を校内に設置し、特色ある教育活動を支える仕組みを構築する。

4 施設・設備について

(1) 生徒が主体的・能動的に学びあう施設・設備

- 少人数での話し合いや発表が行いやすいなどアクティブ・ラーニングに適した教室やラーニング commons の機能を充実させた図書館の設置が望まれる。
- 教室に限らず廊下などの開かれた空間で自由に議論が生まれるスペースの整備や、プレゼンテーションや交流行事などで活用できるホールの設置等が必要である。
- ICT 機器を積極的に活用し、情報を自ら活用、また他者と共有するための環境を構築するため、校内の Wi-Fi 環境をはじめとする ICT 機器等を整備する。

(2) 「魅せる高校」のための施設・設備

- 地域の小・中学生等への開放や小・中学生と高校生とが共に実験や学習を行うことができる施設・設備の整備を検討する。
- 学習・部活動の合宿や海外からの留学生の受け入れが可能となる宿泊機能を備えた研修施設のほか、小・中学生や地域の方とのワークショップ、全学年が参加可能な発表会・ポスターセッションなどが行える多機能型の施設を検討する。
- グラウンドや体育館については、行事や文化部活動にも活用できる施設となるよう整備するとともに、体育館については、南区を中心とする地域の体育館として、これまで以上の開放や、地域の方々に応援・観戦していただけるような整備も検討する。

(3) 地域が輝く施設・設備

- 雑誌・図書の閲覧スペースやカフェテリア等、地域の方や近隣の小・中学生が気軽に利用できる施設の整備が必要である。
- 災害時における被災者の受け入れや救援物資の備蓄、消防器具の保管などが可能な防災拠点としての機能を備えた施設・設備の整備が必要である。

5 学校規模・設置学科について

- 生徒の能力や個性を最大限に伸ばすための教育課程や部活動、生徒会活動等の活性化を考慮し、1 学年 7 学級（280 人）程度の規模を確保することが望まれる。
- 設置学科については、教育みらい科の発展・見直しも含め、目指す生徒像の実現という観点からさらに検討を進める。

6 今後に向けて

- 社会の変革や教育改革など時代の潮流を的確に捉えつつ、「京都市南部の核であり、高校教育のモデルとなる新しい学校」「この学校でしかないというような特色のある学校」という市民の皆様からの期待に応えられるよう、夢を追い理想を追求し、次代を切り拓く学校を創りあげていかなければならない。